

豊昇が連敗 大里は4連勝



4日目

大相撲豊場所4日目
(14日・西園寺技館)

は、横綱豊昇龍が河炎

2白連勝で金星を許し
てる敗となった。初め

て綱とりに挑む大関大

し出し、4連勝とした。
初白星の阿炎は4個目

の大関豊隆は若元春を
寄り切り、星を五分に

栄類、平事の伯松鶴、
遠藤、錦木となった。

三田 おぐりな 夢遺麟
宮内風 ひきおし 大梅美
東白龍 ひきおし 水戸龍
政勝海 よりきり 風賀史

大青山 おじ
英乃海 おじ
御嶽海 おじ
草野 まじ
中入、
朝龍 龍
電 錦木 あみ
電 木 よみ



初のW杯に向け「自分の
フェンシングで挑みた
い」と話す小野

鋭い突き 世界へ手応え

フェンシング男子フルーレ 乙訓高・小野 W杯初代表

普段は物腰柔らかなで控
えめなタイプ。ただマス
クをかぶれば、相手の体
が開いた一瞬の隙を見逃
さず、持ち味のスピード
を生かして鋭い突きを繰
り出す。

4月11日に中国で行わ
れたシニア・カテ世界
選手権のカテ個人では、

体格差のある外国人選手
の懐く臆することなく飛
び込み、6戦を勝ち抜い
た。決勝は米国選手に11
―15で惜敗したが、目標
を上回る2位になった。
シニア(20歳以下)でも
個人10位、団体5位と
好成績を収めた。

フェンシングを始めた
のは7歳の時。指導者の
母の勧めがきっかけだ
た。「最初は相手を剣で
突くのが楽しかった。だ
んだんと相手との駆け引
きが面白くなり、気付い
たらのめり込んでいた」
昨年4月のシニア・



細やかな刺さばきでツツワーク
を生かし、相手の一瞬の隙を狙う
小野凌龍(乙訓高)

「自分から攻める」 17歳以下世界選手権「銀」

カテ世界選手権は、外国
人選手の予想外の攻撃に
対応できず1位に終わっ
た。世界に通用する力強
さをツツワークを磨くこ
と、夏休みを利用して
米国へ短期留学し、外国
人選手との対戦経験を積
んできた。半年間で腰筋
や背筋も強化し体重を約
6kg増やした。

成果を感じ始めたのは
今年に入ってから。「以
前は相手のスピードにつ
いて行けなかったが、今
は自分から攻められる。
自分がやってきたことは
正しかったと実感できて
いる」と話す。

乙訓高のフェンシング
部では、自身の課題と同
き合いながら、仲間とこ
もに理想の動きや体づく
りを目指している。同高
の池端花奈真教諭は「動
画で相手選手の動きを熟
心に分析している。自分
の興味をそこへ追求す
る粘り強さが彼の強さ」
と評する。

W杯を目前に控えた小
野は「上半身の柔軟性と
力強さを両立し、世界の
相手に挑みたい」と穏や
かに語った。(町塚葵)

空手男子組手個人76kg級

龍天―神院
将が右前打
NDO南藤

